

日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院共催
2018年（第105回）二級臨床検査士資格認定試験
受験予定のみなさんに

公益社団法人日本臨床検査同学院
理事長 宮地 勇人

臨床検査士資格認定試験についてご説明します。みなさんもよくご存知だと思いますが、この試験は臨床検査技師の国家試験制度に先行して、橋本 寛敏、緒方 富雄、坂口 康造先生など臨床病理学創設期の大先輩が、検査業務に直接関与する技師の技術・知識の向上を目的として開始されたものです。最初は日本臨床病理学会（現・日本臨床検査医学会）が実施してきましたが、試験業務のような実務を学術団体が扱うことについての議論があり、緒方 富雄先生らが試験運営に特化した日本臨床病理同学院（現・日本臨床検査同学院）を設立され、以後、両者の共催という形で現在に至っています。

なお、試験は同学院11の専門部会の構成員や、現在指導的立場にある医師や臨床検査技師の協力を得て、時代の要請に沿えるような試験内容の改定を進めて実施しています。受験される方々は各科目の試験範囲を事前に十分検討した上で、新しい二級試験に挑戦してください。

緒方先生の「ピアノのコンクールで実技を伴わないものがあるだろうか？」という言葉に象徴されるように、実技を主体にした試験を実施するというのが日本臨床検査同学院の一貫した方針です。試験会場、試験委員の確保、必要試薬、器具の調達など問題も山積していますが、これを継続実施させようという多くの先輩の絶えまない努力があるのです。現在、二級試験の合格者は全分野で36,531名おり、日本全国はもちろんのこと、海外でも活躍しています。本試験の合格者はこれを契機としてさらに勉学に務め、それぞれの分野でリーダー的役割を担う技師として活躍されることを望みます。

二級試験の上には、技師長クラスや博士号保有クラスなど指導的立場の中堅技師を念頭に置いたより高度な技術と知識を問う一級試験も実施されていますので、みなさんもさらに経験を積み、いつの日にか挑戦されることを期待します。

試験の実施要項は日本臨床検査同学院からホームページで公表されていますので、試験範囲や試験場所、期日をお確かめ、十分に準備して受験してください。みなさんのご健闘を心よりお祈りいたします。